

Season in The CUDO

Summer 2025

VOL.29

残暑お見舞い申し上げます。立秋とは名ばかりの厳しい暑さが続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。
今回の Season in The CUDO は、新任理事の紹介から始めて参ります。

新任理事の紹介

星川安之理事

【プロフィール】

星川安之（ほしかわ・やすゆき）：公益財団法人共用品推進機構 事務局長・専務理事
1980年（株）玩具メーカーのトミー工業に入社、新設の「H・T研究室」に配属される
1999年（財）共用品推進機構設立時より事務局長・専務理事を務める。
平成26年度工業標準化事業 経済産業大臣表彰受賞。著書に「共用品という思想」（共著）、
「アクセシブルデザインの発想」、「障害者とともに働く」（共著）共に岩波書店、
「共生社会の教養」経済法令研究会 など



【会員へのメッセージ】

1981年、国連が定めた国際障害年のテーマは「完全参加と平等」、さまざまな国、地域、コミュニティで「もやもや」の議論が始まった。完全参加？ 平等？ 障害者？、たくさんの「？」は、分かりやすい課題に取り組み始めた。車椅子使用者に対して段差をなくす、聴覚障害者に対して字幕を付ける、視覚障害者には点字で情報を伝えるなど、多くの人が想定する範囲の解決案は実行に移され、ガイドラインや規格も作られ、後に国連が採択した障害者権利条約にも繋がったのだろう。

しかし当初の目標である「完全参加と平等」は達成できたのか？に、大きな一石を投げかけたのはCUDOであったと記憶している。「見ること」に不便を感じている人は「見えない人」、「見えづらい人」と大別されていく中で、社会で使われている「色」に「不便さ」がある人がいることを伝えたのである。しかも、どう見づらいか、そしてどうすれば識別できる色、色の組み合わせになるかを、社会に示したのである。権利を主張する前に解決案を示し、自ら課した義務も果たしている。社会の色は変わってきた・・・と思う。ただ、まだ道半ば。CUDOが届けるメッセージと解決案は、更に広げる必要があり、どこまで広げられるか楽しみでもある。

関根千佳理事

【プロフィール】

1993年 日本IBM株式会社でアジア初の障害者支援技術センターを開設
1998年 株式会社ユーディット(情報のユニバーサルデザイン研究所)を創立、代表取締役
2012年 同志社大学政策学部および大学院総合政策科学研究科 ソーシャルイノベーション
コース教授(17年～22年客員教授) 専門はユニバーサルデザインとジェロントロジー
2025年現在 放送大学・美作大学客員教授 東京女子大・奈良女子大非常勤講師
多くの省庁や自治体で審議会等の委員、企業・財団・学会の理事・顧問・評議員を歴任



【会員へのメッセージ】

情報のユニバーサルデザインやアクセシビリティに関わって30年が過ぎました。高齢化に伴い、見えにくい、わかりにくいというニーズを持つ人は増えています。色覚障害の方に見やすい、わかりやすいカラーリングやデザインは、子ども、外国からの観光客、そして多くの高齢者にとって直感的に理解しやすいものになる可能性があります。カラーUDは、多くの人々を幸せに、生きていきやすくするものです。それは、これから必ず歳をとる私たち自身の将来に備えて、日本の社会をユニバーサルデザインと前提とするものへ変えていくという大きな運動になります。CUDOの活動に期待します。

富永さかえ理事

【プロフィール】

愛知県瀬戸市生まれ。

色彩検定 1 級カラーコーディネーター。

調査・研究を主要な業務とする財団法人勤務を経て、2005 年カラー教室を開業。

色彩を扱う者として、色弱者理解、CUD 普及の必要性に目覚め、普及活動始める。

2015 年に CUDO 賛助会員で愛知県在住者が中心となり、普及団体「NPO 人にやさしい色づかいをすすめる会」を設立し、設立当初より代表を務め、普及に専念している。



【会員へのメッセージ】

2015 年 CUDO の協力を得て、愛知県在住の CUDO 賛助会員が設立した普及団体「NPO 人にやさしい色づかいをすすめる会」を運営しております富永さかえと申します。主な活動は講演会やイベント出展等の企画・実施、セミナー・ワークショップ等の講師派遣、CUD や色覚に関する相談者に対して情報提供等の支援です。2019 年からは愛知県の業務委託により出前講座を継続中です。カラー講師としての知識と経験を生かし、色覚の多様性と CUD の技術や手法を如何に多くの人に分かりやすく伝えるかを研究・実践しております。その他、CUD の普及には、多様な色覚の人が互いにその違いを認識、理解し合う機会が大変有用との知見を得、そうしたイベントも実施しております。地道な活動ながら、このような経験・知見が少しでも CUDO のお役に立てるのでしたら幸いと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

谷越律夫理事

【プロフィール】

谷越 律夫（たにこしりつお）

NPO 法人北海道カラーユニバーサルデザイン機構

北海道 CUDO 理事長



1966 年 6 月生まれ

2006 年 3 月に NPO 法人北海道カラーユニバーサルデザイン機構（北海道 CUDO）を設立。定期的に札幌でイベントを開催するなど、道内において CUD の普及啓発に取り組んでいる。CUD 認証をはじめ、セミナーや研修会、会員の組織である「いろいろの会」も運営。有限会社谷越印刷、代表取締役。一般社団法人北海道中小企業家同友会札幌支部政策委員長。

倉橋雄二理事

【プロフィール】

東京造形大学造形学部デザイン学科 卒業

オフィス家具メーカー デザイン会社 を勤務後

徳島に 有限会社コンセプトデザイン研究所を設立 現在に至る

徳島に 2012 年 CUD を進める会を設立 現在副理事長



【会員へのメッセージ】

私がカラーユニバーサルデザイン（CUD）を知ったのは東京の友人から「伊賀（CUDO 副理事長）さんて知っている？」という電話からでした。私は徳島で Apple コンピューターを販売していた時の伊賀さんを、知っていたので、「知っています。」と答えたのが、CUD との出会いでした。その後「NPO 法人 CUDO」の活動を聞き、デザインのプロセスにはこの活動は必要だと思い、徳島で私が参加している福祉住環境の普及を行っている「阿波グローバルネット」で CUD の話をする、実は私も色弱だという人がいて、すぐに会長になってもらって「CUD をすすめる会」の設立を決めました。「CUD をすすめる会」は鳴門市のハザードマップ検証や高校・中学校での特別授業や、近隣自治体イベントでの CUD 普及のパネル展示や色弱体験コーナー作りなどを行っています。これからも CUD を普及させるために、色々な分野の団体や個人へ向けて活動を広げたいと思っています。

7月23日（水）、公益財団法人 共用品推進機構において、2025年前期の賛助会員の集いを開催いたしました。今回は二部構成での開催で、第一部は新任理事のコーナーでも紹介いたしました、公益財団法人共用品推進機構 事務局長・専務理事の星川氏にご講演いただきました。

「共用品」とは、障害の有無や年齢・言語の違いなどに関わらず共に使える製品のことで、「一般製品」と「福祉用具」が重なる範囲であることを図で説明されました。共用品推進機構の歴史は古く、1991年に前身となる市民団体が発足し、1999年に財団法人、2012年には公益財団法人となっています。多様な人々の身体や知覚の特性により、身の回りには色々な不便さがあり、これを知ることが共用品を考える上での出発点になります。



ご講演中の星川理事

不便さを知る為に聴覚障害者の家庭訪問をした時のエピソードは印象的でした。何か困っていることはないかと尋ねたのですが、最初は意見が出なかったそうです。それもそのはず、聴覚障害者はそもそも音が聞こえない為、不便であること自体がわかっていなかったのです。そこで、いつ・どこで・どのような音が出ているかを説明したところ、ようやく意見が出てきたとのこと。調査する場合はその方法が大切であるとの話に納得しました。そういえばこの話、色の見分けでの困りごとを聞かれて「ない」と答える色弱者に似ていると思いませんか。色の違い自体に気付いていない為、不便だと感じないという点では、聴覚障害者と似ているのではないかと感じた次第です。

視覚障害者向けのギザギザ付きシャンプーや点字付きビール缶はご存じの方も多いと思いますが、これらは「触ってわかる共用品」のごく一部です。他にも、注ぎ口がわかるように切り欠きを設けた牛乳パックや、ラップとアルミホイルの区別がつくように施されたエンボス加工など、様々な共用品があることを知りました。詳しくは共用品推進機構のホームページをご覧ください。 <https://www.kyoyohin.org/ja/index.php>



左：休憩時に常設展示室を見学中 右：共用品のミニチュア「ちいさな共用品展」で紹介されているクロワッサン。形の違いにより、バターとマーガリンのどちらを使用しているのかがわかる。

第二部は CUD 友の会にも度々参加されている小説家・ノンフィクション作家の川端裕人氏に、『『新版・色のふしぎと不思議な社会』紹介と新しい論点』と題してご講演いただきました。内容は実験に基いた色のカテゴリーの違いや、アメリカ空軍や英民間航空局の新しい色覚検査、そして就職時の色覚による制限の変遷など多岐にわたるものでした。詳しい内容は是非本書を手にとってご確認いただきたく、ここではこの程度に留めておきます。また本誌最終ページの「CUD O今後の活動予定」に記載した8月23日のCUD友の会にて再びご講演いただきます。お楽しみに。



ご講演中の川端裕人氏

1. はじめに introduction

こんにちは、いかがお過ごしでしょうか？この度、私ども CUD 友の会は、みなさまへの**招待状**を作成いたしました。ぜひ、最後までお目通しくださいますよう心よりお願い申し上げます。

2. あなたはだれ？

具体的なお話に入る前に、簡単に自己紹介です。招待主を明かすことは、最低限の礼儀だと心得ているつもりです。招待する皆様へ無礼があってははいけませんから…

私が CUDO の存在を知ったのは 2013 年です。右のポスターに見覚えのある方もいらっしゃるかもしれません。美術館や博物館を巡るのが趣味の生活を送る中で、たまたま目にしたこのポスターが運命の分かれ道でした。展示を観に行った際に CUDO 副理事長 伊賀公一 氏のトークを聴き衝撃を受けました。これが CUDO と関わるきっかけであり、自身の色覚を考えるきっかけとなりました。ちなみに、私の色覚型は、D 弱です。



https://www.2121designsight.jp/program/color_hunting/

3. あなたはなぜ参加したの？

「そういう世界があるから覗いてみないか？」と誘ってもらいました。当時は秋葉原のビルの中にあった CUDO 事務局の会議室で行われていたのです。そして、「CUD 友の会」という名称もありませんでした。毎月 1 回、CUDO 事務局の会議室に集まり、いろいろな色覚を持つ人々と交流しました。「そもそも色とは？」といったお話から、「色覚ってなんですか？」、「なぜ、違う色覚の人たちがいるのですか？」といった色覚のお話、さらに、CUD の考え方などいろいろなことを教えてもらいました。今もなお、私たちが CUD 友の会の活動を継続できているのは、こうした経験が根底にあるからだと確信しています。自分自身と見え方の違う人がある、そして、見え方の違いにも違いがあるということは、自分 1 人だけの世界では、どうしても気がつかないものです。

4. あなたの他の参加者は？

今では、10 年続く会になりました。十年一昔という言葉が示す通り、相応の歴史を紡ぐことができたのではないかと考えています。そして、それは、いろいろな人たちの協力があってこそだということは忘れるわけにはいきません。さまざまな事情で一旦、離れた方が、年月が経ち、再び参加してくれるようになりました。最近では、大学生、高校生、中学生といった次世代を担うみなさんの参加も見受けられるようになりました。また、職業も、教育関係の方、大学で CUD などを研究されている方、一般企業で働くエンジニア、デザイナー、いろいろな方がいます。もちろん、**当事者の方も、当事者の保護者の方も大歓迎です。**

5. みなさまへのご招待 invitation

2025 年の CUD 友の会は、通年のテーマとして「CUD 的カタリバ」を掲げています。語り場です。CUD、色覚やデザインについて、「いろいろお喋りできるといいね」という想いを込めました。参加者のみなさんの協力もあり、毎回、充実した時間になっていると自負しております。色覚の異なるいろいろな人たちとの交流は、「異文化コミュニケーション」です。私にとって判別可能な色の組み合わせが、他の人にとっては見分けにくい色の組み合わせになってしまう。その逆も然り。そうしたお互いの共通点、相違点を探り対話を重ねることには、多くのエネルギーが必要です。しかし、**諦めずに対話を続ければ開くドアがあるはず**です。さらに、自分の色覚を他の人に伝えることは、「自分の弱点を伝えること」という先入観に囚われがちです。しかし、本来、**色弱は弱点ではありません**。そうは言っても、その語り場へ続くドアを開く勇気が必要であることも確かです。10 年前、私が初めて CUDO 事務局のドアを開ける時にそれが必要だったように。ですが、トラック 1 台分の勇気を用意する必要はありません。ほんの**小さじ一杯の勇気**があれば、そのドアを開くことができるはず。きっと、あなたをいろいろな世界へ、そして、見たことのない世界へ、連れて行ってくれるはず。必ず。

私もドアの向こう側で、みなさんとお話できる日の訪れを心よりお待ちしております。

CUDO 今後の活動予定

1. CUD 友の会
 - ・8月23日(土) 午後2時～4時
 - ・新版 「色のふしぎ」と不思議な社会 記念交流会
 - ・オンライン開催
2. 第37回埼玉県「目の愛護デー」
 - ・10月5日(日) 13:00～16:00
 - ・さいたまスーパーアリーナ TOIRO
3. 第10回バリアフリーフェスタかながわ
 - ・11月1日(土) 11:15～17:00
 - ・横浜そごう9階 センタープラザ

募 集

宛先はいずれもメール mail01@cudo.jp にて
(TEL/FAX の場合は: 03-6206-0678 まで)

1. ご意見、ご感想
Season in The CUDO へのご意見、ご感想をお寄せ下さい。
2. 会報誌制作スタッフ
Season in The CUDO の制作を手伝って下さるボランティアスタッフを募集しています。
3. CUD 友の会世話人
3ページで紹介している CUD 友の会の運営を手伝って下さる「世話人」を募集しています。
4. CUD 検証協力者の募集
印刷物・機器類・公共サイン・施設などの評価や、研究調査などの協力者を募集しています。
色覚タイプは P 型・D 型色覚の方に限らせていただきます。

かっくんの色弱物語

CUDO 個人賛助会員(会社員 S さん)による4コマ漫画です。

第11話 傘の色はピンク?グレー?

ある朝、駅のホームで電車を待っていた彼は、中学時代の同級生と偶然出会いました。



お、おはよう。久しぶりだね。誰かと思った。



その後、彼は電車の中で彼女のカバンにあったある物に気が付き...



えっ? この傘グレーだよ。



第12話 色弱の先生・同級生

彼はCUDOに参加するまでは、自分以外の色弱者を2人しか知りませんでした。



しかし、この先生は学年が違ったので授業を受けたことはなく、話をしたこともありませんでした。



それから6年後、大学の研究室が一緒になった同級生が彼の出会った2人目の色弱者です。



でも、別に気にすることないよ。免許だって普通に取れるしさ!



編 集 後 記

約3年ぶりに Season in The CUDO を発行してから3箇月が過ぎました。「次号がいつ発行できるかが今後の継続のカギとなる」。そんなプレッシャーを感じていた時期に、4月に新たに就任された理事の方々からご寄稿をいただいたことは本当に助かりました。本誌で新理事の方々を紹介するのは2011年春号以来、実に14年ぶりのこととなります。いずれも様々なジャンルで活躍されている方々ばかりで、会員の皆様には興味深くご覧いただけたことと思います。お忙しい中で原稿の執筆をご快諾下さった理事の方々には、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

CUD 友の会のページは、会員の皆様への招待状形式で世話人のたのすけさんに原稿を執筆していただきました。また、前述の賛助会員の集いの際にも、「CUD 友の会へのお誘い」と題してお話をしていただきました。その時に使用したスライドを元にした、「CUD 友の会紹介ムービー」が出来上がり、CUD 友の会ホームページで公開していますので、是非ご覧下さい。 <https://cud.jp/cudtomo/introductionmovie/>

data (2025年8月22日現在)

- ・個人賛助会員: 151人
- ・企業・団体賛助会員: 58団体
- ・CUD 検証協力者: 158人

Season in The CUDO Summer 2025 VOL.2.9 2025年8月22日発行
発行元: 特定非営利活動法人 カラーユニバーサルデザイン機構 (CUDO)
〒160-0022 東京都新宿区新宿五丁目17番6号 新宿三光町ハイム 501
TEL/FAX: 03-6206-0678
発行人: 武者廣平